

川口の教育



【令和5年度 川口市立芝西中学校陽春分校 入学式】

第648号

【目次】

校長会長のあいさつ	市立校長会長（川口市立西中学校長）	三浦 伸之	・・・(2)
	小学校長会長（川口市立上青木小学校長）	高橋 眞一	・・・(2)
	川口市立高等学校長	杉林 正敏	・・・(3)
	幼稚園長会長（川口市立南平幼稚園長）	柏 奉子	・・・(3)
指導の手引き 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けて	川口市教育局学校教育部指導課 指導主事	村上 裕一	・・・(4)
令和5年度 川口市立学校（園）研究テーマ一覧			・・・(5)
教育ルポ			・・・(6)

5 月号
—令和5年—

◆校長会長のあいさつ◆

「新たな出発点」

川口市立校長会長 三浦 伸之
(川口市立西中学校 校長)



4月のある朝、職員室の前にいた生徒が「マスクを忘れてしまいました。」と困り顔で話しかけてきました。「今はマスクをすることは求めないので、マスクなしでも大丈夫ですよ。」と伝えると、「わかっているのですが、みんなマスクをしたままなので、自分からは外しづらくて・・・。」と保健室でマスクを受け取り、教室へ向かっていきました。長い間、得体のしれないウイルスに翻弄され、この時代の当事者となった子供たちの心の中を解していくには少し時間がかかるようです。

ポストコロナを迎え、新たな生活にうまく適応できない子供たちのことが懸念される場所ですが、今後も子供たちの心情に寄り添い、丁寧な支援をしていかなければならないことを改めて決意したところです。また、これまで長きにわたり子供たちを守り、寄り添い、支え続けてきた先生方の頑張りに対する敬意と感謝を申し上げたいと思います。

さて、文部科学省は4月28日、新型コロナウイルス感染症の5類への移行後の学校教育の在り方について、これまで制限されてきた教育活動をただ単にコロナ前に戻すのではなく、真に必要なものを積極的に実施するとともに、GIGAスクール構想のもとで生み出されてきた多様な教育実践やデジタル技術を生かし、さらに新たな学びへと進化を図っていくことが重要であることが示されました。

その背景として、コロナ以前に学校で継続して行われてきたことがコロナ禍で見直され、自粛や制限、廃止をしても支障がないものがあることや、GIGAスクール構想によって一人一台端末の整備が一気に進むなど、教育環境のデジタル化が大きく進展したことが挙げられます。

コロナ禍で生まれたニューノーマルにより、これからの学校教育の在り方や教職員の働き方改革など、新たなスタンダードの確立や、持続可能な新しい学校教育の創造が急加速で求められています。課題が絶えない学校現場ですが、不易と流行を見極め、本年度、川口市教育委員会から示された「チーム川口 個人戦から団体戦へ」を新たな出発点として、新たな時代を切り拓く子供たちのために、未来志向型の川口の教育を「チーム川口」一丸となって実現していきましょう。

「ポストコロナとこれからの学校教育」

川口市立小学校長会長 高橋 眞一
(川口市立上青木小学校 校長)



令和5年度を迎え、川口市内各学校、幼稚園におかれましては、新たな教職員を迎え、希望に満ちた子供たちが新学期を迎えられたことと思います。5月から新型コロナが感染症5類に位置付けられることを受け、各学校、幼稚園は感染対策の大幅な規制緩和に向かうことになると思います。

文部科学省を始めとした各教育行政機関から5類移行後の教育活動についての方針が指示されました。改めてそれぞれの学校、幼稚園においても自らのように教育活動を進めていくかを考える必要があると思います。

ところで新型コロナの5類移行後について、「ポストコロナ」「アフターコロナ」と言われています。どちらも大きな意味の違いはないようですが、アフターコロナは人が新型コロナウイルスを治療薬などである程度コントロールできている時期を示すことに対し、ポストコロナはコロナ禍で様変わりした時期も含めたコロナ収束以降の社会を示すそうです。そうであれば各学校は、新型コロナへの対応を続けたこの3年間で、それ以前にはなかった新たな教育環境、例えば一人1台のGIGAスクール端末を活用した教育活動、日常から自身の健康に気をつけること(頻繁に手洗いをする、体調が悪ければ躊躇なく休む等)、教職員の働き方改革の推進、など新型コロナの流行で様変わりした『ポストコロナ』における学校教育の推進を考えなければなりません。

そしてコロナ前に戻した方がよいものと、むしろ新型コロナまん延時の教育活動の方がよいものとを精査して、各学校(園)の教育計画、教育活動を早急に見直し、実践していくことが大切と考えます。

これからも校(園)長が中心となって全教職員が一丸となり、子供たちが学校を楽しみ感じ、自己の成長を実感できる学校、幼稚園にすること、そしてポストコロナの社会の中でたくましく、心豊かに生き抜く子供を育てていくことが重要です。学校間の連携、家庭・地域との連携を強固なものにし、子供たち一人一人を伸ばす学校づくりに取り組んでいきたいと考えております。

川口市教育委員会をはじめ関係の皆様には、今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆校長会長のあいさつ◆

市立高等学校～『発展期』から『飛躍期』へ～ 川口市立高等学校 校長 杉林 正敏



令和5年度がスタートし、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけの変更に伴い、学校教育にも変化の兆しが見える中、各学校・園では円滑な教育活動を行われていることと拝察いたします。

このような中、川口市立高等学校は開校から6年目に入り、開校時に10年間を見通して、新しい学校づくりのビジョンとして策定した「川口市立高等学校将来構想」も第1期「創世記」の3年間から、第2期「発展期」に移行して3年目となりました。今年度は、来年度からの「飛躍期」の4年間に向けて、「新たなタイプの進学校づくり」のまとめの年となります。

振り返れば、この数年間、本校は着々と学校としての「進化」を遂げてきました。ハード面では、令和2年度の大アリーナ、令和3年度の人工芝グラウンドや第2校地の野球場の完成等を経て、新校としての施設整備が完了しました。ソフト面では、令和4年度からの5年間、文部科学省よりSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されました。今年度、SSH事業も2年目となり、SSHを学校づくりの中核事業として、理数科教育の一層の充実と、学校全体での探究的な学習の推進にさらに取り組んでまいります。

また、附属中学校も開校3年目を迎え、今年度で3学年すべてが揃いました。来年度からは附属中学校の生徒たちが「内進生」として高校に入学してきます。これを踏まえて、今年度は中高一貫教育による学びの体系づくりを学校全体で進めてまいります。

高等学校では、令和4年度入学生から新学習指導要領が年次進行で実施されています。「内進生」が入学してくる来年度は、新学習指導要領への移行の完成年度となります。生徒たちには、「何のために学ぶのか」という学習の意義を常に実感できる教育を授業の「場」などにおいて提供しつつ、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力、人間性等を身に付けていってほしいと願っています。

先の見えない変革の世紀を子供たちが生き抜いていくためにはどのような支援が必要なのか。解は一つではありませんが、これからも川口市立高等学校は、学校としての「飛躍期」に向け、附属中学校と連携して全力で教育活動を推進してまいります。

「小・中・高等学校に繋がる幼児教育」

川口市立幼稚園長会長 柏 奉子 (川口市立南平幼稚園 園長)



市立幼稚園では、4月10日、11日に3・4・5歳の保育が始まり令和5年度をスタートしました。

舟戸幼・南平幼の両園では、幼稚園教育要領が示す「知識及び技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つを幼稚園教育における育みたい資質・能力としています。

また「幼児期までに育って欲しい姿」（「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形・標識や文字などの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」）を明確にし、小学校教育への円滑な接続を図るよう努めています。

幼児期は、自然な生活の流れの中で直接的・具体的な体験を通して、人格形成の基礎を培う時期といわれています。幼稚園では、『いろいろな遊び』の中で十分に体を動かし、友達との関わりを深めていきます。遊びの中で数量や図形、文字などに興味関心をもちます。幼稚園生活において、言葉の音がもつ楽しさや美しさに気付くこともあり、いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにします。さらに感じたこと、考えたことを表現したり、自由に描いたり工夫し、歌を歌うなどの楽しさも味わいます。

そこで両園では幼稚園教育研究協議会を運営し、保育実践に基づき、実践事例などの研究協議を行っています。昨年度より「感じて 考えて 表現する 幼児の育成」を主題とし、今年度も「幼児が心を動かし、表現を楽しむための環境構成や教師の援助の在り方」の研究をさらに広げていきます。幼児が感じたり、考えたりしたことを動きや音、形や色など自分なりの方法で表現する喜びや、幼児が何に心を動かし、何を表そうとしているのかを受け止めながら、「造形や音楽」に視点をあてて取り組んでまいります。

本年度はポストコロナの年として、ますます家庭や地域、小・中学校との連携を推進し、信頼される幼稚園として、また一人ひとりが輝く、しなやかさとたくましさこそなえ、川口の子供たちのため、全力で取り組んでまいります。今後とも、川口市教育委員会をはじめとする関係の皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

指導の手引き 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けて

川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 村上 裕一

1 はじめに

中央教育審議会は令和3年答申^{*1}において、2020年代を通じて実現を目指す学校教育に関わる一連の取組を「令和の日本型学校教育」と位置付け、全ての子供たちの可能性を引き出すための手立てとして、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を掲げた。その後文部科学省は、これらを実現するための参考資料^{*2}を作成した。ここでは、文部科学省等の参考資料を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた算数科における実践例を述べる。

2 個別最適な学び

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成することを目的として、「指導の個別化」と「学習の個性化」の2つの側面で学習者視点から整理した概念である。児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することが重要である。

なお、「個別最適な学び」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」である。

○指導の個別化

子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行うなど、**一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進めること**

○学習の個性化

子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行うなど、**異なる目標に向けて、学習を深め、広げること**

3 協働的な学び

子供たちの多様な個性を最大限に生かすことを目的として、教師と児童生徒の関わり合いや児童生徒同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通して学ぶことが重要である。

○協働的な学び

子供一人一人のよい点や可能性を生かし、子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働するなど、**異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出すこと**

4 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

実際の学校における授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わせられて実現されていくことが多いと考えられる。授業の中では、個別最適な学びの成果を協働的な学びに生かし、さらにその成果を個別最適な学びに還元するなど、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実していくことが大切である。このことは、下図で示されるように「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながり、子供の資質・能力の育成に資するものである。



「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿^{*1}

5 実践例 算数科 6年「円の面積」

(1) 本時の目標

多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明することができる。

(2) 本時における個別最適な学びと協働的な学び

○**指導の個別化**…授業の前半、共通の問題を解決するための計画を立て、解決することをとおして新しい知識を発見する。

○**学習の個性化**…授業の後半、既習事項を使って探究し、新たな問題を発見する。

○**協働的な学び**…個別最適な学びを支えるための学びとして位置付け、個で考えたり他者とともに考えたりと、学習形態を子供たちが自由に選択できる。

(3) 展開例

①「授業の前半」(導入の場面)

T 色のついた部分の面積を求めましょう。

C ラグビーボールみたいな形だね。

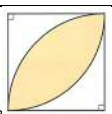
C 曲がっている線があるけど、円ではないね。

C 周りの図形は正方形かな。長さを知りたいな。

C 対角線を引けば、三角形になるね。

C 面積の求め方を習った図形を組み合わせれば…。

※図形をじっくりと観察する時間を確保し、教師の支援や児童同士の対話を通じ「このままではすぐに面積を求められないこと」に気付くことができるようにする。その後、「解決に必要な情報」や「面積を求められる形(円や正方形、三角形など)を組み合わせればよさそう」という計画を見いだせるようにする。



②「授業の後半」(終末の場面)

T 練習問題を1問解き、その方法を説明しましょう。2問目は、教科書の問題を解いたり、問題づくりにチャレンジしたりしましょう。

C 練習問題の解き方がわからないな。(⇒教師の支援)

C 教科書の問題を解いてみよう。(個別)

C 今日の問題の長さを変えてみよう。(個別)

C 友達がつくった問題にチャレンジしてみよう。(協働)

※本時で身に付けさせたい力を見取るため、少なくとも1問は共通の適用問題に取り組む。2問目以降は、児童一人一人の状況に応じた学習活動を提供し、その活動を児童自身が選べるようにする。

6 おわりに

今求められている「個別最適な学び」は、「個別最適化された学び」ではない。児童生徒が、AIにより個別最適化された問題を解くだけでは、受け身の学びになってしまう。ぜひ、主体的に自己調整しながら様々な問題に向き合うことができる児童生徒を育成していただきたい。また、ICTや地域の教育資源を最大限に活用し、学級での授業で想定される協働的な学びよりも広い意味での協働的な学びにも挑戦していただきたい。

参考資料

※1 中央教育審議会(令和3年)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/s_onota/1412985_00002.htm (令和5年4月確認)

※2 文部科学省(令和3年) 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に関する参考資料

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/me xt_01317.html (令和5年4月確認)

令和5年度 川口市立学校(園) 研究テーマ一覧

小学校

本町	自分の考えを深め、豊かに表現する児童の育成
幸町	自分の考えをもち、他者との関わりの中で学びを深める授業づくり ～進んで授業に参画できる児童の育成～
仲町	認め合い、学び合える仲小っ子の育成 ～思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価～
上青木	進んで考え、学ぶ楽しさを実感できる児童の育成 ～協同的な学びを通して、学習意欲と思考力の向上を図る指導法の工夫・改善～
元郷	主体的・対話的で深い学びの実現と創造
飯塚	主体的に学びに向かい、共に高め合おうとする児童の育成
芝	課題解決に向けて、自ら考え、自分に合った学習を選択し、伝え合える児童の育成 ～「できる・わかる・のびる」喜びが味わえる授業づくり～
新郷	自ら運動に親しみ、豊かなスポーツライフを実現する児童の育成 ～「できる」「楽しい」「続けたい」授業実践を目指して～
神根	学び合い、互いに高め合う児童の育成 ～学びの共同体の授業実践の充実を通して～
青木北	一人一人の個性の伸長を目指した教育 ～「学んだこと・身に付けたこと」を活用して問題を解決する児童の育成～
領家	「自ら学びを発動させ、共に学び合う児童の育成」
舟戸	『学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進』 ～他者によりよく生きる幼児・児童・生徒の育成～
十二月田	汗をかき 共に学ぶ 運動好きな しわすだっ子の育成
飯仲	話し合いや活動を通して自己肯定感を高め、学校生活を自らより良く創造できる児童の育成
並木	運動の楽しさや喜びを味わい、主体的に運動に取り組む児童の育成
安行	見つけ 広げ 深める算数科の授業実践 ～よさを認め 学び合い高め合う児童の育成～
原町	自ら学び、共に学び合う児童の育成
前川	「考え、学び合い、創造し、学びを深める児童の育成」 ～思考力、判断力、表現力を育成し、教科横断的な学びにつながる授業改善～
戸塚	主体的に学び、共に高め合う児童の育成 ～児童の思考でなされる授業・児童の思考がにつながる授業づくり～
青木中央	自ら考え、進んでかわらうとする児童の育成 ～well being を目指す非認知能力の育成～
元郷南	主体的に自信をもって活動する児童の育成 ～思いをもって、挑戦する楽しさ味わう図画工作科の実践を通して～
芝西	運動に親しみ、運動の楽しさを味わい続ける児童の育成 ～児童が運動の特性を味わい、進んで運動に取り組む体育授業の実践～
芝南	確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成
神根東	「自分の考えをもち、聴き合いながら学ぶ児童の育成」
朝日東	主体的・対話的で深い学びの実現 ～自ら学びを深める授業づくりを通して～
芝富士	GRITを伸ばす教育の実現 ～学びにひたむき、学びに夢中、学びが大好き～
前川東	「自他の良さを認め、互いに高め合える」児童の育成 ～道徳科と学級活動・ライフスキルの授業を通して～
柳崎	いきいき学び合う子の育成 ～個別最適な学びの視点から～
芝樋ノ爪	主体的・対話的で深い学びのためのICTの活用
新郷南	自立的に自己の能力開発に取り組む児童の育成
上青木南	主体的に学びをつくることのできる児童の育成 ～一人一人がわかる・伝える・できる アウトプットを重視した授業展開～
根岸	「児童の学び合いを深める授業の探究」 ～学びの共同体の実践～
芝中央	「進んで学び、思いや考えを伝え合う児童の育成」 ～どの子にも「わかる」「できる」「楽しい」が感じられる授業の創造～
新郷東	「自ら考え、進んで行動する児童の育成」 ～非認知能力の育成を中心に～
朝日西	共に学び合い、生き生きと主体的に学習する児童の育成 ～楽しく基礎基本を身に付け、「できる！」「わかる！」をもとに自分で考える算数を目指して～
慈林	自分の思いや考えを生き生きと伝え合い、新たな学びを創造する国語科学習
差間	自ら学ぶ児童の育成 ～自分の力を高めるために自分で学習を考える児童～
東本郷	よりよい人間関係を築き、自他のよさを生かす学級活動
東領家	主体的に学習に取り組む、やり抜こうとする児童の育成 ～思いやり、考える学習活動の工夫を通して～
安行東	自尊感情を育む学級経営の工夫
在家	共に学び合い、確かな学力を身に付ける児童の育成
戸塚東	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫改善 ～GIGAスクール端末の効果的な活用による、授業の創造～
戸塚北	自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる児童の育成 ～書く力の育成を軸に、各教科における言語活動の充実を通して～
木曾呂	主体的・対話的で深い学びの創造 ～児童も教師も家庭・地域も共に学び成長する学校～

戸塚綾瀬	主体的に自己を表現する児童の育成
戸塚南	人と関わりながら、よりよく生きる力を身につけた児童の育成
鳩ヶ谷	問題解決的な学習の充実
中居	自分の考えを持ち、表現できる児童の育成
辻	「わかる楽しさを味わえる授業づくり」 ～見方・考え方を動かせる算数科の授業～
里	自分の思いや考えを生き生きと伝え合う児童の育成 ～豊かな言語活動と必要感のある交流を通して～
桜町	心・身体・人とのつながりを育む健康教育 ～主体的に運動に関わり、自己肯定感を高める体育授業を通して～
南鳩ヶ谷	自分の思いや願いを豊かに表現し、つくりだす喜びを感じられる児童の育成

中学校

東	確かな学力を育む基礎基本の徹底
西	確かな学力の定着を図る学習指導の充実 ～GIGAスクール端末の効果的な活用を通して～
南	『学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進』 ～他者によりよく生きる幼児・児童・生徒の育成～
北	探求と協同の学びの創造 ～デザイン→実践→リフレクションへの授業改善～
青木	諸問題を自力解決できる生徒の育成 ～話し合い活動を通じた人間関係づくり・教育相談の充実～
芝	地域の防災拠点としての学校を目指して ～生徒の共助の精神の育成と地域との協働体制づくり～
元郷	教師の授業改善で生徒の学力向上 ～「待つ姿勢」と「諦めない指導」～
上青木	考える力を育む ～自分の力でPDCAを行う力の育成～
幸並	多様化・グローバル社会に対応できる学校を目指して
十二月田	誰もがわかる・できる授業 生徒自前で教え、考える授業の実践 ～「確かな学力」に繋げる基礎・基本の定着～
仲町	「学びの共同体の構想と実践」 ～21世紀型の授業と学びの実現に向けて～
安行	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ～学びの共同体による授業デザインを通して～
芝東	生徒が安心安全に学べる授業の研究 ～教育相談の充実と基礎学力の向上～
芝西	「主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善」 ～生徒がもつと知りたいと思える授業・学びが広がる授業～
芝陽春分校	多文化を生かした授業づくり～生徒の持つ背景を大切に授業の創造
岸川	主体的・対話的に学習に取り組む生徒の育成 ～ICT機器を活用した個別最適な学びと協同的な学びの実現～
榛松	主体的・対話的に学びあう生徒との育成 ～「気づく」「考える」「深める」学習活動の展開を通して～
小谷場	「チーム学校として一人一人に寄り添う、個に応じた教育の実践」
神根	「学びの共同体」の創生に向けて ～ジャンプ課題を取り入れた授業デザインの工夫～
領家	伝え合い、認め合い、高め合う生徒の育成
戸塚	社会で生きて働く力の育成 ～非認知能力の向上を通して～
在家	「学びの共同体」による主体的・対話的で深い学びの実践 ～共に学びあい、伝え合う授業づくり～
安行東	自ら課題を発見し、主体的・対話的に学ぶ生徒の育成
戸塚西	気づき、考え、実践する生徒の育成 ～適切なICTの活用を通して～
鳩ヶ谷	地域と協働し、多くの体験活動を通して、心豊かな生徒の育成を図る
八幡木	ICTを活用した個別最適な学びの実践 ～誰一人取り残さない学びの構築～
里	1人1台端末を活用した授業の質的な向上～ ～確かな学力の育成を目指して～
川口市立高校附属	「未来を創る、しなやかでたくましい人材の育成」 ～特色ある教育課程による中高一貫教育の研究～

高等学校

川口市立高校	「主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践」の研究 ～ICT・AIを活用した授業の開発～
川口市立高校(定時制)	①「単位制総合学科としての学校運営」の研究 ②「生徒の進路実現に向けたキャリア教育」の研究

幼稚園

舟戸	『学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進』 ～他者によりよく生きる幼児・児童・生徒の育成～
南	豊かな表現力の育成 ～友達との関わりを楽しみ、表現する喜びを味わう～

教育ルポ



川口市マスコット「きゅぼらん」

芝西中学校陽春分校 入学式 令和5年4月11日(火)



芝西中学校陽春分校は、31名の新入学生を迎え生徒数45名で令和5年度をスタートさせました。

本年度も1年間よろしくお願いいたします。

水上少年自然の家 指導者講習会



水上自然教室は、自然の中での様々な体験を通して、友情をはぐくみ、学級への所属意識を高めるとともに、規則正しい生活習慣や集団行動、自主的な態度を身につけること目的としています。

その目的の達成に向けた活動が安全安心に実施できるよう、事前研修並びに現地踏査を行います。